令 和 ２ 年 度 推 薦 入 学 試 験 問 題

金沢美術工芸大学

学科・専攻名	第 ２ 次 選 考 試 験 問 題
芸術学専攻	**小論文Ａ** 次に掲げる文章は、郡司ペギオ幸夫による『天然知能』（二〇一九年）からの抜粋です。これを読んで、内容を二百字程度に要約しなさい。 また、筆者の主張に対して、自分の意見を四百字程度で述べなさい。 **小論文Ｂ** 配布された作品の図版を見て、何がどのように描かれているかに留意しながら、８００字程度で解説しなさい。 作品名：HOUSE OF PICTURES (CARRERA) 作　者：ピーター・ドイグ(PETER DOIG) 制作年代：2004年　　大きさ：縦200cm、横301cm 技　法：油彩　カンヴァス　　所　蔵：Gayle and Paul Stoffel
視覚デザイン専攻	**実技試験** 今までで、一番強く感謝したことをイメージし、魅力的な画面を構成してください。
製品デザイン専攻	**実技試験** 自在ほうきで使う「ちりとり」をデザインしなさい。
環境デザイン専攻	**実技試験** 配布された素材を用い、祝祭の場にふさわしいトーチを立体物として表しなさい。それを台紙（ゴールデンボード）上に配置・構成したのち、画用紙に「トーチに炎が灯された状態」を想定して鉛筆デッサンで表現しなさい。
工芸科	**実技試験** 与えられた「蕪(かぶ)」をモチーフとし、自由に想定した台の上に載せ粘土を用いて立体表現しなさい。

※　第１次選考は書類審査です。

令和二年度　金沢美術工芸大学　美術工芸学部　美術科　芸術学専攻

推薦入学　試験問題　小論文Ａ

次に掲げる文章は、郡司ペギオ幸夫による『天然知能』（二〇一九年）からの抜粋です。これを読んで、内容を二百字程度に要約しなさい。また、筆者の主張に対して、自分の意見を四百字程度で述べなさい。（解答は別紙）

夏の初めになると、道路脇の小さな崖に繁茂したマメ科の植物、そこに乗っていたマメコガネを思い出します。学生時代の通学路、職場に通った道と、場所は様々なのですが、いつも夏の崖は、縦横無尽に蔓を広げ、大きな分厚い、野生のマメ類に特徴的な緑の葉に覆われていました。そういった葉を見つけると、必ず葉の端や、蔓上の小さな芽などに、マメコガネを探したものでした。

マメコガネは、光沢のある茶色の背中（羽）が、やはりメタリックの緑色に縁取られた、大人の爪ほどのコガネムシです。何より魅惑的なのはそのポーズで、前から三対目の脚は、大きく上に持ち上げられたり、横にまっすぐ突き出されたりしているのです。前二対の脚で、葉や、他のマメコガネの背中にしがみつきながら、後ろの脚はしっかりと、華麗なポーズをキメている。

マメコガネは出初式をやっているに違いないのです。江戸の火消しは、いなせさと度胸を示すパフォーマンス、それに訓練を兼ね備えた形で、出初式をやっていたのでしょう。何よりそれは人に見せるものだったはずです。マメコガネの出初式は、誰も見るものがいない。抜けるような青空のもと、暴力的な緑の繁茂の上で、誰に見せるでもなく、いつまでも自慢のポーズをキメ続けている。いや私だけが、それをじっと見ていたのでした。出初式を真似するマメコガネ、だからそれはいつも、マネコガネだったのです。

さて、世界に対する対処の仕方は、三つに大別されるでしょう。人工知能の対処の仕方、自然知能の対処の仕方、天然知能の対処の仕方です。これを、身近な虫や

魚に対する向き合い方において考えてみます。

第一に、人工知能です。食べるためとか、害虫として駆除するとか、自分にとっての用途、評価が明確に規定され、その上で対処するという向き合い方が、人工知能の対処に相当します。それは一昔前の日本ではよく見られた風景の一部であり、むしろ動物的な気さえして、未来的な人工知能とはソリが合わないようにも思えます。しかし私はこれを、人工知能の思考様式に対応させたいと思います。なぜならそれは、自分にとって有益か有害かを決め、その評価のみで自分の世界に帰属させるか（食べて取り込む、益虫として利用するか）、有害なものとして排除するか（有毒なものを無視する、害虫として駆除するか）、いずれかに決め、自分にとっての世界を広げるものだからです。

第二に、自然知能です。ここでは、自然科学が規定する知能という意味で、自然知能という言葉を使います。自然知能という言い方は、様々ありますが、本書で言う自然知能とは、自然科学的思考一般の事です。昆虫少年の思考様式が、自然知能の対処の典型となります。自然知能に従う昆虫少年は、世界を理解するために、博物学的、分類学的興味から虫や魚に対処していきます。学名は無理としても、正式な和名を覚え、捕虫網を持って昆虫採集し、毒瓶で虫を殺して標本を作る。こうして世界に対する知識を蓄積していく。これが自然知能です。

第三に天然知能です。第一の人工知能が「自分にとっての」知識世界を構築する対処、第二の自然知能が「世界にとっての」知識世界を構築する対処であったのに対し、天然知能はただ世界を、受け容れるだけです。誰にとってのものでもなく、知識ですらない。或る場合には評価をすることがあっても、別の場合には一切無意味であるものも受け容れる。評価軸が定まっておらず、場当たり的、恣意的で、その都度知覚したり、知覚しなかったり。これが天然知能です。

子供の頃、ドブ川でナマズを捕っていた私は、天然知能でした。近所には里山が広がり、草深い土手に区切られた用水路で、フナやドジョウを捕っていた私は、食べるためでも、博物学的興味からでもなく、ただ魚を捕り、しばらく飼っては、近くの沼に逃しに行っていました。その地方では梅雨の終わりに大雨が降り、近隣の

沼に棲息する大型のナマズ、ライギョ、五十センチにはなるだろう、コイが、近所の、江戸時代に作られた堀に流されてきました。

大雨の翌日は決まって快晴で、水の引いた堀の淀みに、ナマズやコイが、背びれを見せながら潜んでいました。それを小さなタモ網で掬い上げることの無上の喜び。堀の上から冷やかす大人の声も気にせず、当時は自転車さえ捨てられていた堀の中で、ただ魚を捕り続けました。帰宅するとタライに魚を放し、その背中をひたすら眺めました。

自然知能は、博物学的に魚を同定しようとしますから、ナマズやコイのイメージは常に図鑑に示されたような、横から見たイメージになります。人工知能では、自らの経験が作り出した用途でイメージが決まります。食べ物として利用するとき、ナマズやコイは三枚おろしや切り身であり、インテリアとして利用するときには、水槽の中で水草と一体になったイメージとなり、その都度、それ以上でもそれ以下でもないイメージが確定します。

天然知能が見るナマズやコイのイメージは、水面から見る影であり背中です。それは常に上から見た黒々とした流線型で、奥の暗がりからフッと現れ、また奥へと消えて行っては、天然知能を興奮させます。天然知能は、自分には見えない暗がり、どうなっているのかわかるはずもない向こう側からやってくるもの、向こう側へ行くものに興奮するのです。魚が向こう側との接点であるとき、自然の中で生きている姿を見るしかない。すなわち、私たちは、水中の魚を、上から見るしかないのです。

向こう側は、他人に聞いても誰にもわかりません。客観的に意味のないものです。だから自然知能は無視します。自然知能は、問題や謎として知覚されたものだけに興奮するのです。人工知能は、知覚できたデータだけを問題にしますから、まずはデータを見せてくれ、と言うでしょう。見えないものに興奮するのは、天然知能だけの特権なのです。

郡司ペギオ幸夫『天然知能』（講談社選書メチエ、二〇一九年、初版第二刷）

令和２年度

金沢美術工芸大学　美術工芸学部　美術科　芸術学専攻

推薦入学　試験問題　小論文Ｂ

配布された作品の図版を見て、何がどのように描かれているかに留意しながら、８００字程度で解説しなさい。〔解答は別紙〕

作 品 名：　HOUSE OF PICTURES (CARRERA)

作　　者：　ピーター・ドイグ（PETER DOIG）

制作年代：　2004 年

技　　法：　油彩　カンヴァス

大 き さ：　縦 200cm、横 301cm

所　　蔵：　Gayle and Paul Stoffel

受験番号	

令和２年度
金沢美術工芸大学　美術工芸学部
デザイン科　視覚デザイン専攻
推薦入試　第二次選考問題（実技試験）

【問題】

今までで、一番強く感謝したことをイメージし、
魅力的な画面を構成してください。

【条件】

・別紙に制作意図を記入してください。

・与えられた用紙（B4 ボード）の全面を使用してください。

・縦横は自由とします。

・与えられた画材で着色してください。

・与えられた下書き用紙にアイデアを何パターンか展開し、
用意された B1 ボードに貼って提出してください。

【注意】
・色見本帳の使用は禁止します。
・持参した絵具の使用は禁止します。
・試験問題に関する質問は認めません。
・問題用紙、下書き用紙は試験終了後、すべて回収します。

以上

受験番号	

令和２年度推薦入試　実技試験

金沢美術工芸大学　美術工芸学部　デザイン科　製品デザイン専攻

■問題

自在ほうきで使う「ちりとり」をデザインしなさい。

■デザインの条件

1. 自在ほうきの幅は 45cm である。
2. 学校の教室・廊下での使用を想定すること。
3. ちりとりとほうきは各々別の人が使用すると想定すること。
4. 「ゴミの取りやすさ」「ゴミ箱への捨てやすさ」「使わない時の美しさを」を追求すること。
5. 造形・素材・色を自由に考えること。
6. 与えられたボール紙を使って丁寧にモデルを作り、４番の条件を検討すること。

■提出物

1. **最終提案の着彩スケッチ**：B3 サイズ１枚
   ボール紙で制作した提案モデル１点の最終イメージを精密に描くこと。
2. **使用方法説明図**：A3 サイズ１枚
   デザインポイントと使い方をイラストと文章で簡潔に表現すること。
3. **寸法図**：A3 サイズ１枚
   寸法図及び素材や色彩などについて記載すること。
4. **アイデアスケッチ**：A3 サイズ２枚
   異なるアイデアや形、機能などを表現すること。

※ １～４を別紙のレイアウト図を参照し、スチレンボードにレイアウトすること。

5. **制作したモデル**
   最終提案モデル１点とその他検討モデルがあれば提出すること。
6. **問題用紙**

■注意

1. 提示したサンプルは参考とし、とらわれなくてよい。
2. 与えられたサンプル、材料、道具類などは、試験終了後に全て回収する。
3. ボール紙を加工する際に怪我をしないように注意すること。

受験番号：

令和２年度
金沢美術工芸大学 美術工芸学部デザイン科 環境デザイン専攻
推薦入試　第2次選考問題

【問題】

配布された素材を用い、祝祭の場にふさわしいトーチを立体物として表しなさい。それを台紙（ゴールデンボード）上に配置・構成したのち、画用紙に「トーチに炎が灯された状態」を想定して鉛筆デッサンで表現しなさい。

【条件】

・ 立体物は台紙に接着して固定しなさい。
・ 立体物の面の配色は、配布された素材で自由に設定してよい。
・ 立体物の大きさは台紙の幅・奥行きの範囲とし、高さ30㎝を超えてはならない。
・ 鉛筆デッサンはすべてフリーハンドで描きなさい。

【注意】

・ 問題に関する質問には答えられない。
・ デッサンは受験番号を書く欄を裏側とし、表側に描きなさい。
・ 立体物を配置する台紙（ゴールデンボード）は、受験番号を書く欄を裏面とし、表側に固定しなさい。
・ 試験終了時間までに作品をダンボール板に固定すること。
・ この問題用紙は試験会場からの持ち出しを禁止し、試験終了後に回収する。
・ 制作により出たゴミは、所定の場所に捨てなさい。

令和２年度

金沢美術工芸大学　工芸科　推薦入試

実技試験　（立体表現）

令和元年 11 月 16 日（土曜日）

午前 8 時 30 分～12 時 30 分

問題

与えられた「蕪（かぶ）」をモチーフとし、自由に想定した台の上に載せ粘土を用いて立体表現しなさい。

条件１.台の形状、大きさ、想定する素材は自由。

２.モチーフの大きさ、個数は自由。但し、モチーフ自体は加工しない事。

３.解答作品は塑像板から高さ３０cm 以内。

４.解答作品は塑像板からはみ出さない事。

５.粘土は必要な量だけ袋から取り出して使用する事。

注意１.用具は募集要項に指定された持参用具と机上のもの以外使用してはならない。

モチーフ　蕪　１個

配布用具　水粘土１kg×１０個、塑像板、粘土ヘラ、霧吹き、鉛筆３本、消しゴム、